

佐賀県高等学校

P T A 新聞

発行 佐賀県高等学校 P T A 連合会
佐賀市成草町 7 - 29
電話 0952(29)2573
F A X 0952(26)5435
印刷 大同印刷株式会社



みずのと 癸巳の年

会長 小出 邦彦



明けましておめでとうございます。会員の皆様には、希望も新たに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年を振り返りますと国内では、なかなか進まない東日本大震災の復興、政治の混乱、さらに国外では、米国の安全保障問題、竹島・尖閣諸島をめぐる韓国・中国との国境問題等、多くの心配事がありました。

そのような中、京都大学 i p s 細胞研究所長である山中伸弥教授の「ノーベル生理学・医学賞」の受賞や、沖縄県で開催された「ミスインターナショナル 2012」で鳥栖市出身の吉松有美さんが、日本人初のグランプリに選ばれたという明るいニュースもありました。

今年が癸巳（みずのとみ）の前回の癸巳年は、六十年前の一九五三年（昭和二十八）。前回は「一八九三年（明治二十六）」。このように、癸巳年の出来事を五世紀まで振り返ってみました。

その結果、どういうわけか癸巳の年には、日本だけでなく世界的に見ても、大きな出来事（事件）を発見することができませんでした。そのような中で、天保四年には、全国的な大雨、洪水と、それに伴う冷夏などが原因で、東北地方を中心に全国的な飢饉となった「天保の大飢饉」が起こっています。また、昭和二十八年には、九州地方北部を中心に発生した、梅雨前線の原因とする集中豪雨による水害、いわゆる「昭和二十八年西日本水害」により、多くの犠牲者が出ています。癸巳年は「天災に見舞われる年」かもしれません。地震や大雨に対する備えには気を配りたいものです。

新年を迎え、国内・国外ともに根本的な問題解決には、まだまだ時間がかかりそうですが、子どもたちの成長は待ってくれません。「P T A 活動を通して社会教育、家庭教育の充実及び学校教育との連携に努め、わが国の次代を担う青少年の健全育成を図り、もって生涯学習社会の形成に寄与する。」という全高 P 連の目的を「座右の銘」として、今年も頑張っていきたいと思います。最後になりましたが、皆様方のご健勝を祈念し、年頭の挨拶といたします。

佐城地区 当番校 佐賀女子高校

秋晴の十月三十日（火）、平成二十四年度佐城地区指導者研修会が開催されました。今年は会場をアバンセホールに変え、各学校から保護者、関係職員五百五十名をこえる参加者がありました。来賓には佐賀県文化・スポーツ部まなび課の関弘紹様、県高等学校 P T A 連合会会長の小出邦彦様、県高等学校 P T A 連合会事務局長香月英二様をお迎えしました。

鹿藤地区 当番校 嬉野高校

本年度の鹿藤地区高校の指導者研修会が、十月六日（土）嬉野市の「嬉野館」を会場に、昨年と同様「共に学び、共に高め合う P T A 活動」を研究主題に約九十名の参加者を集め開催されました。

「各学校 P T A 活動報告」

体育祭・文化祭への参加、スポーツ大会、ボランティア活動、登下校の交通指導、挨拶運動、うどんや豚汁の提供、環境整備など各学校の学校側と一体と

研修会を開催するにあたって、当番校会長（佐賀女子高等学校後援会会長）上田雄一氏が挨拶され、県高等学校 P T A 連合会の委員会並びに会員各位のご尽力に対して、深い敬意と感謝の気持ちを述べられました。続けて県高等学校 P T A 連合会会長の小出邦彦氏が挨拶をされました。その後の記念講演では、敬徳高等学校理事長稲田繁生先生による「自立できる十八歳を育てるために」と題して講話が行われました。その冒頭は、「高校教育の使命は自立できる十八歳の育成です。団塊の世代が全員、後期高齢者になる二〇二五年。今の高校生は三十代に突入します。彼らを待ち受けているのは想像を絶する負担の増大です。」というものでした。

先生の講話をお聞きし、今回の研修会の目的でもある「青少年の健全育成と P T A 活動の活性化を推進するため、P T A 指導者の資質の向上を図る。」ことになった P T A の活動報告がありました。

【講演】
「未来へ乾杯！」子どもたちの幸せを願って」という演題で、佐賀市教育委員会学校教育課長・佐賀市城東中学校の前校長吉木知也先生から、全国で発生している子どもに関する悲惨な事件の背景に子どもたちのコミュニケーション不足があり、親や教師・地域の大人たちにも「教育」の責任があるという指摘がありました。

大人たちが子どもたちへ声をかけたり、夢を語りかけたり、子どもたちの夢を潰さないように努めること。子どもたちに感動体験をさせ、家庭で感性の基本を育む教育をすること。さらに、子どもたちに「我慢」と「努力」を身につけさせるこ

とを各会員がしっかりと学びました。最後に上田会長はその講演内容に感銘を受けられ、早速実践してみますと謝辞を述べられました。また、同時にホール内には一様の空気が流れていました。



講演風景



《佐賀女子高校 本告 豊》

との大切さを話されました。持参したギターの弾き語り「未来へ」と「乾杯！」を披露され、深刻になりがちなテーマも先生の情熱的な語りで共感を呼ぶ音楽で、聞いていた私たちに「生きる力」と子どもたちへの教育（躾）について意義深い講演となりました。



吉木知也先生の情熱的な語り

《嬉野高校 渡邊 雅幸》

文部科学 大臣表彰

三養基高校 P T A が、二十一年度の嬉野高校 P T A、二十二年度の金立特別支援学校 P T A に続き、二十四年度優良 P T A 文部科学大臣表彰を受賞されました。

十一月十三日（火）に文科省講堂で行われた表彰式には、弓博文会長が出席されました。

県下一斉合同列車指導

十月九日（火）、佐賀県高等学校生徒指導連盟と合同の列車指導を行った。



出発式風景

お知らせ

- 来年度の佐高 P 連「会費」と全高 P 連賠償責任補償制度の「掛金」は、今年度と同額です。
- 佐高 P 連事務担当者会議
四月二十三日（火）十四時
- 佐高 P 連定期総会
六月四日（火）十四時
- 九高 P 連大会宮崎大会
六月二十日（木）二十一日（金）
- 全高 P 連大会山口大会
八月二十一日（水）二十二日（木）
（平成二十五年度は二日間開催）

春 秋

▼世の中の有り様が今までは大きく変わろうとしていることは誰もが感じておられるだろう。ここ数年で携帯電話は瞬く間に普及し、これなくしては……といった状態である。誰かとながっていないと不安で、ことばはますます饒舌に早くなっているようにも感じられる。心の深いところではつながっていないことの反動であろうか。

▼南極越冬隊員の妻が夫に書き送ったことばの話が思い出される。妻は手紙に一言だけ書いて送り、夫はそのことばにただただ涙したそうである。「あなた」という一言。万感の思いを込めて送り、それをその思いのまま受け取るこのところのつながり。

▼「男はつらいよ」の渥美清氏は、外国の旅先で毎日母親宛にはがきを出していたという。旅を共にした永六輔氏はどんなことを書き送っているのか気になったが、私信でのごくわけにもいかない。何かの拍子にまたまたちらっと中を目にしてしまったらしい。驚いたことになった一行だった。「オレ、元氣」と。どんなに年を取ろうと母は母、子は子。母親は子が元氣かどうか心配なのだ。そのことを子は子として受け入れ毎日旅先からはがきを書き送る。「オレ、元氣」のはがきを受け取った母……。

▼より遠くへ、より速く、より簡単に届くようになればなるほど、皮肉にも言葉というものはやせ細っていくものようである。

鳥栖商業高等学校
校長 西牟田明徳

第十九回アジア太平洋地域宇宙機関会議 (APRSAF19)
水ロケット大会 (優勝 日本代表に決定)

唐津東高等学校

本校では、缶サット (模擬人工衛星)、モデルロケット、水ロケットに関する研究を行っています。

今年度は、APRSAF19 水ロケット大会 (AWRE) 派遣日本代表を決める水ロケット大会に一年生女子二名が、「鶴城 Rocket Girls」として初参加しました。



は全国三十三チームの応募がありましたが、二次審査出場チームに選ばれ、平成二十四年八月二十四日(金)に神奈川県 JAXA 相模原キャンパスで日本代表をかけた全国大会に出場しました。

全国大会は、自作した水ロケットを各自二本ずつ射出し、五十 m 先の定点に打ち込む美



技と面接審査でした。その結果、本校の「鶴城 Rocket Girls」が日本代表として国際大会に派遣されることになりました。

今年の国際大会は、八十 m 先の定点に打ち込む競技で、平成二十四年十二月八日、九日にマレーシアのクアラルンプールで開催され、アジア・太平洋の十数カ国の代表チームが集います。



杵西地区

当番校 伊万里高校

杵西地区の指導者研修会は、十一月二十二日(木)に伊万里市民センターにおいて、十校から十二の単Pで五十名の参加者で開催されました。開会行事には、県高P連より副会長小林佳樹様、事務局長香月英二様、県文化・スポーツ部まなび課より関弘紹様にもご参加をいただきました。研修会は、「共に学び、共に育つPTA活動を目指して」という研究主題を掲げて進めていきました。まず、元佐賀商業高等学校校長であられた川副正文先生より「子育ては親育ち」という演題でお話をいただきました。先生の経験の中で、印象に残っている生徒の紹介があり、そこから子どもや生徒を育てていくために必要なことを多くの例をあげながらの講演でした。専門であられる剣道や様々なスポーツ種目での話には説得力があり、成長には「+a」が必要で、それは「忍耐力」、「行動力」、「コミュニケーション力」などであるといった内容には同感するところがありました。



講師の川副正文先生

その後、事例発表として二校のPTA活動が紹介されました。伊万里商業高校からは「感謝の気持ちを忘れずに」のサブテーマで組織の紹介の後、県総体への差し入れ、文化祭・体育祭へのバザー等の参加、地区別清掃活動など生徒と保護者が一緒に行う活動を多く発表していただきました。武雄高校からは、武雄青陵高校との統合後に発足した武雄青陵中学校PTAと連携やこれまでなかった活動を作ったというという積極的な取り組みを多くの写真で紹介されました。最後に、関様より指導助言をいただき、予定時間を超えての有意義な研修会を行うことができました。

唐松地区

当番校 唐津東高校

平成二十四年度佐賀県高等学校PTA連合会唐松地区高等学校教育振興会指導者研修会を十一月十三日(火)に唐津鶴城同窓会館で開催しました。

来賓として、佐賀県高P連会長小出邦彦様、佐賀県高P連事務局長香月英二様、唐津市教育委員会教育長大塚稔様、唐津市青少年支援センター相談主事佐々木文雄様の四名をお迎えして唐松地区の高校から約六十名の保護者、教職員の参加がありました。

今年度は昨年度までと異なつて形態を講演主体において、実施しました。

今年度の研究主題を『ネット社会における親と子の危機管理能力養成』として、開式のあとKodomoz. Oの小城市立牛津小学校教諭の陣内誠氏に、「子どもたちを有害情報から守るには」という演題で講演をいただきました。

携帯電話のフィルタリング機能を用いた学習者用デジタル教科書を使用しその検証の結果、ICTを授業に用いることによ

シリーズ No16

頑張ってるわ!! 輝いてるわ!!

佐賀女子短期大学付属佐賀女子高等学校衛生看護科の「戴帽式」が六月六日(火)、佐賀市文化会館で行われました。

衛生看護科の二年生、七十九名が初めて純白のナースキャップをかぶり、ナイチンゲール像にともされた火を自分の口ウソクに移し取り、「われはここに集いたる人々の前に敵かに神に誓わん。わが生涯を清く過ごし人々の幸のために身を捧げん。」と全員でナイチンゲール誓詞を読み上げました。

口ウソクの灯に照らされ、厳粛な雰囲気の中で、六月十一日から四週間の病院



『戴帽式』
佐賀女子高等学校衛生看護科

実習を前にした生徒たちは決意を新たにしようとした。式場には生徒の保護者、中学時代の先生方の姿があり、成長した子どもたちに皆感銘を受けておられたようでした。

式辞の中で同校の久保田昭校長は「患者と向き合う豊かな人間性を持ち、誇りある看護師を目指して日々前進して欲しい」と激励。

戴帽生代表の牧山聖さんは、「喜びと感謝の気持ちをこれからも決して忘れず、明るく責任感のある看護師を目指したい」と抱負を語りました。



三神地区

当番校 鳥栖商業高校

本年度の三神地区高等学校PTA研修会が、去る十一月二十二日(木)、県高P連会長小出邦彦様をお迎えし、また、三神地区七つの高校から六十名余りの保護者・教職員の参加を得て、サンメッセ鳥栖で開催されました。開会行事では、事務局である鳥栖商業高校PTA会長佐藤龍二の挨拶に続き、県高P連会長の小出邦彦様より来賓の挨拶をいただきました。

講演では佐賀県教育庁教育政

《伊万里高校 多島 誠》

策課教育情報推進室より副室長石井和裕様、担当係長下村昌弘様をお招きし、「先進的ICT活用教育について」①なぜ今、ICT活用教育の推進か②国における近年の主な情報化推進の動き③教育の情報化は、時代の要請④佐賀県の主な取組⑤実証研究から実践へ(全県展開に向けたアプローチ)⑥実証研究で確認できたこと⑦事業実施で求められる人材育成についてご講演をいただきました。その中で総務省FS事業対象校兼、文科省からの指定を受けた武雄青陵中学校では、昨年度から電子黒板を設置、授業で活用を始



研修会

められ今年度は国語・英語・数学について学習者用デジタル教科書を使用しその検証の結果、ICTを授業に用いることによ

研修の後半では、全高P連和歌山大会の報告が、鳥栖高等学校PTA会長高尾浩伸様、九高P連ふかめんね絆ふくおか大会の報告及び「鳥栖商業高校のPTA活動について」の事例発表が鳥栖商業高等学校PTA会長佐藤龍二より行われました。

三時間近くの研修会で、質疑応答では多くの意見が出され内容も豊富な有意義な研修となりました。

《鳥栖商業高校 本多利津子》



研修会